

(寄稿)

福井県済生会病院における部分最適から全体最適への取り組み
～ 日本経営品質賞 (大規模部門) 受賞の変遷 ～

2012年福井県済生会病院は、日本経営品質賞を受賞した。医療機関による大規模部門での受賞は日本初である。

福井県済生会病院は、1941年に福井診療所として始まり、現在は、県内における中核病院の一つとして、460床、診療科23科、職員数1,400名と大規模病院となっている。移転新築直後の1993年時点で約500名であった職員数は現在では、1,400名を超えている。1,000名を超えたころから組織間のベクトル統一が困難になり、方向性を見失いつつあったという。

その様な中、独自のマネジメントシステム (SQM ; Saiseikai Quality Management system) を立ち上げ、最終的には、職員満足度 (ES) の向上から患者満足度 (CS) の向上に結びつけるという成果を挙げている。

経営管理手法はいろいろあるが、ISO9001 やバランスト・スコアカード (BSC)、シックスシグマのそれぞれの長所を、医療機関の実情に合わせ融合させているところが、SQMの興味深いところだ。

日本経営品質賞は、公益財団法人日本生産性本部が1995年12月に創設した表彰制度で、選考時の最高意思決定を行うその委員会は、日本の各界を代表するリーダー8名で構成されている。2013年までの18年間で213組織が申請し、34組織が受賞している。

本稿は、日本経営品質賞受賞に至る活動内容やその考え方など福井県済生会病院 事務副部長兼経営企画課長の齋藤 哲哉 氏にデータ等も交えご紹介いただいた。

ESからCSに繋げるという成果を出すまでの一連の取り組みの中で、職員間の対話とその中で生まれる「気づき」を大切にしており、組織体制作りやベクトル合わせ等の課題を抱える医療機関にとっては興味深い内容になっている。

(市川)

2014年9月22日

Healthcare note

(No. 14-10)

寄稿者名：
福井県済生会病院
事務副部長兼経営企画課課長
齋藤 哲哉

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
市川 剛志

野村證券株式会社
金融公共公益法人部